



立谷相馬市長、菅波アムダグループ代表、片岡総社市長による鼎談

教訓 東日本大震災の被災地 相馬市に学ぶ

福島県相馬市長が講演

東日本大震災の義援金のお礼にと、8月25日、福島県相馬市の立谷秀清市長が来総。総合福祉センターで自主防災組織の代表や消防団の幹部団員、市職員など約200人を前に、「災害対応は義理と人情―組織的行動・コミュニティ・友好自治体―」と題して講演しました。

立谷市長は、相馬市の震災発生後の対応状況や復興の様子などを、写真や映像、資料とともに説明。「気持ちを折らざるがんばるることが大事」と強調。「危機に立ち向かうとき必要なものは『人』。人間教育、人づ

大規模災害に備えて

講演後には、立谷市長、アムダグループの菅波代表、片岡市長の3者で、「大規模災害への備えと助言」をテーマに鼎談。立谷市長は、「備えておくべきものとして、『市役所の強い組織力』『水を中心とした備蓄』『通信手段となる消防無線』と。また、菅波代表は、「これまで行った災害支援の経験を生かし、危機管理意識を高くもつべき」と指摘。片岡市長は、「市長が判断力を鍛え、市職員が成長し、組織を強固にすれば、市民との信頼関係も生まれる。」



総社中学校合唱部のメンバーが「群青」を歌い、立谷市長にエールを送った

市長と市民、職員との信頼関係が大切

立谷秀清相馬市長



共助 自主防災組織が防災避難訓練を実施

自主防災組織の結成を

「自分たちの地域は自分たちで守る」という「共助」の精神に基づき、地域住民が自主的に結成し、初期消火、救出・救護、集団避難、給水・給食などの防災活動を行う団体が「自主防災組織」です。

平成25年度末現在、総社市では、自主防災組織に加入している人の割合は45.3%となっています。自分の住んでいる地域に自主防災組織がまだ無いのであれば、自治会・町内会などを中心に、自主防災組織を結成することを検討してください。

下原・砂古自主防災組織

9月7日、下原・砂古自主防災組織（平成24年設立）による防災避難訓練が、同地域内にある広場2か所で行われました。



非常用持ち出し袋などを持って避難する地域住民

訓練は大地震が起きたという想定で実施。サイレンと避難指示を伝える放送を合図に、地域内の住民260人が、自宅から指定された避難場所の広場まで徒歩で避難しました。

この地域では、避難経路を水害と地震で違うルートを設定。今回の訓練で各自、地震の際のルートを確認しながら避難していました。また、11ある班の班長が、各世帯の安否を確認した



市消防署職員による人工呼吸の指導

り、車椅子を使つての模擬避難などが行われました。避難場所となった広場では、炊き出しや新聞スリッパの作成、人工呼吸、AEDの使用法、止血法の指導などを実施。参加者は防災知識を共有していました。

同自主防災組織の川田嘉会長は、「紙を見るだけではだめ。実際に体で覚えることが、一人ひとりの防災意識を高めることにつながる。自分の命を自分で守る『自助』が一番。そして次に、地域の自主防災組織で力を合わせ、被害を最小限に食い止める『共助』が必要になってくる」と話しました。

自助 非常用持ち出し袋を各自で準備

次の物は大人用非常持ち出し袋の参考例です。健康状態や生活環境などにより、入れておく物が異なります。自分にあった非常用持ち出し袋を準備し、すぐ持ち出せる場所に置いておきましょう。



全てのものを100円ショップでそろえることができました

- ①飲料水 断水に備え、必ず入れておきましょう。賞味期限があるので定期的に入れ替えてください
- ②タオル マフラーや汗ふきにしたりなど、何かと役立ちます。長めのものがお勧め
- ③携帯用トイレ 凝固剤タイプや高分子吸収剤タイプがあります
- ④カッターナイフ 作業や調理などに便利。安全に持ち運べるものを選びましょう
- ⑤ライト 電池が不要な手動電源タイプのものもあります
- ⑥ビスケット 食べやすく、できるだけ薄味のものがお勧め。賞味期限切れに注意しましょう
- ⑦あめ 食べやすく、空腹感を紛らわせることができます。賞味期限切れに注意しましょう
- ⑧笛・軍手・ロープのセット 笛は被災した時に自分の居場所を伝えるのに必要。軍手、ロープは作業に便利です
- ⑨ごみ袋 防寒着や雨がっぱにも代用できます
- ⑩袋 持ち運びに便利なリュックサック型のものでお勧め



菅波アムダグループ代表



片岡聡一総社市長

最後に、総社市と認定非営利活動法人アムダが力を合わせ、相馬市をサポートしていくことを約束。また、総社中学校の生徒が、「復興への祈りを込めて、応援をしています。力を合わせ、共にがんばりましょう」と、立谷市長に応援メッセージを送りました。